

1 自己評価及び外部評価結果

ユニット名: 菜の花

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200062		
法人名	社会法人岐宿園		
事業所名	グループホーム岐宿園		
所在地	長崎県五島市上大津町596番地1		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果確定日	平成30年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・アットホームな雰囲気です。自宅に近い環境で過ごして頂いている。 ・入居者同士が仲良く住みやすい環境で過ごすことができる。 ・看取りはできないが出来る限り園での生活を楽しくして頂いている。 ・国民年金だけで入居できる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kishikuen.web.fc2.com/grouphome.html
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>まず岐宿園に入って気づいた点は、衛生管理が徹底されていることであった。職員や面会者への手指消毒や足底消毒、マスク着用は当然のこと、利用者への衛生管理もしっかりと対応されていた。次に訪問調査において、特に確認することのできた工夫点を3つ紹介する。まず運営面における1つ目は「理念の実践」についてである。法人として掲げている理念に基づき、「職員の目標」を設定して職員が行動しやすい環境を整えている。2つ目は「運営に関する利用者・家族の意見の反映」のところで、家族の面会が多い敬老会等の催し物の際に、意見箱を設置してその場で要望等を記載してもらう取り組みを行っている。普段の意見交換に加えて、効率的に家族等の意見を聞くことのできる好事例と言える。最後の3つ目は実務面において、看護師が作成した機能訓練計画に基づき、利用者個々の身体症状に合った運動等を行っている。このような取組みの結果、利用者によっては排せつ動作や摂食動作の自立につながっている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年3月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

菜の花

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「岐宿園の理念」「職員の目標」を朝礼に唱和し、実践に繋げている。新たに「コミュニケーションの基本姿勢」が追加された。	理事長が作った「岐宿園の理念」の文言は、利用者の人権の尊重や地域の中で生活することを支援する内容でわかりやすくまとめている。また、理念を落とし込んだ「職員の目標」や「コミュニケーションの基本姿勢」を文章化している。また理念等は職員の目につきやすいところに掲示して、意識付けを行っている。	「岐宿園の理念」に基づいて「職員の目標」を作成される等、理念の共有に向けて素晴らしい取組を実践されているが、理念の実践を更に深めるためにも、毎年理念の実践や職員の目標を、職員全体で見直して評価する機会を期待したい。このような取り組みの実践は、職員にとって運営の根幹である理念の理解を深めるいい機会となり得る。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はお盆の行事である、ちゃんこ・祭りの上太鼓(10月)、敬老会ではダンスを地域の方から披露して頂いた。	地域の様々な行事に参加したり、ホームに向いてもらう等、可能な限り「地域との交流」を意識した取組を行っている。しかし、現状として利用者の重度化に伴い、以前のように地域との交流の頻度が減少傾向にある。このような中でも、計画的に交流を行うように工夫していることを、ヒアリングの中から確認することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は利用者様のご家族や知人の方・施設見学の方にグループホームの理解や認知症について説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況、行事の報告を行っている。職員が講師を務め、感染症や身体拘束・虐待などの勉強会を行い、会議での委員の皆様より、様々な意見をサービスに活かしている。	ホームの特徴的な運営推進会議の内容として、会議の中で職員が講師となってミニ講話ではないが、感染症予防の話や身体拘束等テーマを決めて参加者に伝達している取組みが挙げられる。通常のサービス提供の状況報告に加えて、このような取組を実践している。ミニ講話の内容から様々な意見や質問が出てきて、相互通行の会議を実践できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員が運営推進会議に参加している。介護保険の手続き・権利擁護の件・生活保護の申請の件などで本所にいき、顔なじみとなり相談できる関係作りが出来ている。	法人の事務長が窓口となって、行政機関とやり取りを行っている。介護保険の更新申請や認定調査だけではなく、必要に応じて権利擁護等の相談も行っている。その他、運営推進会議開催の際に、欠席された委員の方には郵送等行い、現状報告をするようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を行っている。朝礼時、事故報告・ヒヤリハット等の報告を行い、対策を話し合っている。やむを得ず身体拘束を行う場合、ご家族に必ず説明・同意を得た上で出来る限り最少減に努め、毎月ミーティングで検討会を行っている。身体拘束委員会も発足され、全体での検討会が開かれている。	身体拘束や虐待防止については、内部研修の実施や、外部研修への参加で知識を深化させている。更に身体拘束委員会で話し合った内容を、毎月定期的で開催しているミーティングの場で共有するようにしている。現在、身体拘束において特に注視していることは、「ちょっと待ってください」に代表される言葉の制止で、その都度、言葉の使い方や代替の言葉等、職員間で協議するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様の研修会を行い、全職員が知識と理解を深め虐待防止に取り組んでいる。虐待をよく理解し、一人ひとりにあったケアを目指して優しく接するということに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で講師を招き研修会を開いている。職員によっては実際関わりが少ないため理解しにくい研修会年間計画に取り入れている。個々の必要性を関係者と話し合い、必要に応じ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご利用者やご家族の方に見学や十分な説明を行い理解・納得して頂き、同意を得て契約している。改定の場合も通知し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の面会時・ケアプランの説明時に、ご本人やご家族に事業所に対する気付きがないか聞くようにし、連絡ノートに記入、職員間で共有している。また、今年は敬老会で意見箱を設置し、ご家族を含め来園者の方々に投函して頂いた。	利用者やその家族と意見交換する場面としては、日常生活や家族においては面会時が中心となっている。ホームの意見収集の特徴的な取り組みとして、敬老会等家族が多く参加するような行事の折に意見箱を設置して、その場で意見等を記載してもらったり方を確認した。このように意見収集する工夫をして、可能な限り様々な改善を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング時に意見・提案を出し合っている。また、個人面談など行い職員の意見を聞くように心掛けている。各ユニットの主任を通し、意見を伝えて貰っている。	ホームのユニット主任は、普段から職員への声かけを意識して、利用者のことや労務面等様々な情報を得るように努めている。この他、定期的ではないが、場合によっては理事長自ら職員1人ずつ面談することもある。このように法人全体で職員の意見を聞く姿勢を示しており、実際に職員のヒアリング時に風通しの良さを確認することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実力や実績を把握し、働きやすい職場作りをしている。職務の意識を高めている。処遇改善を行うために「グループホーム岐宿園利用料金の改正(平成29年11月1日)」を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会案内を回覧し、参加を促している。不公平のないよう一覧リストを作り、偏りのないよう努めている。法人内で年間職員研修計画を立て、合同で月1回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体的には難しいが個人で同業者の方と知り合いになり、お互いの情報交換(秘守義務以外)しあい参考にしている。ご利用者の見舞いがたら施設を相互訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報収集をできる限り行い、職員が情報を共有、ご本人の心に寄り添い、要望に耳を傾け、不安感をできる限り取り除き、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族やご本人に不安なこと、要望をお聞きし、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をお聞きした上でご本人の状況を把握し「今何が必要か」を見極め支援している。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にご自分でできることはして頂き、その上で見守り・介助に努め、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めご家族宛てに、園での様子や健康状態を書いた手紙を職員が手書き、園での様子がわかるよう「岐宿園だより」を発行、同封している。本人様の近況を代弁し、ご家族とご本人との絆が深まるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた美容室やお店・かかりつけの病院などに行けるようにしている。また、お客様に来て頂いたことに感謝の言葉や挨拶を大切にしている。	利用者が入居前から通っていたお店等へ可能な限り通うことができるように、家族の協力を得たり職員が時間を見計らって支援したりしている。ホームの特徴的な取組みとしては、面会に来た方へ感謝の気持ちを伝えて、人的つながりを大切に、また途切れさせないように、おもてなしの心で出迎えている点である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間(10時・15時)には、全員が食卓に揃い、お茶の後にはレクリエーションやお話を楽しんでいる。孤立せず皆さん楽しく過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してからの退所が殆どであるが退院後ご本人やご家族のご要望があれば法人の有料老人ホームで待機して頂き、空きができたなら入所して頂くようにしている。身近に頼れる方がいない場合など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動等から思いや意向の把握に努め「申し送りノート」に記入して、職員間で共有、思いや意向を叶えるよう努力している。また、サービス計画作成時でのモニタリング等にて、要望意見などお聞きし反映させている。	日常生活の中で、利用者の話を良く聞き把握に努め、「申し送りノート」に記入して職員間で共有している。ミーティングや日常生活の中で、把握した利用者の思いや意向を職員間で話し合い、客観的に検討している。また、面会時に家族からも情報を得る等、多方面から利用者の思いを把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報・基本情報・看護サマリー等、ご本人・ご家族の意向をお聞きした上で見守り・介助を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来る所を見極めながら、自立に向けた支援を行っている。小さな変化も気付けるよう職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度は介護計画の見直しを行い、ご本人・ご家族に説明し、同意・署名・捺印をして頂いている。介護計画書にはご本人・ご家族・担当介護職員・看護師・その他の職員の共同と医療の記録・介護記録等から課題を導き出し介護サービス計画書を作成している。	担当職員を中心に他の職員や看護師、医療の記録等から様々な意見を出し合いアセスメント（課題分析）を行っている。利用者や家族の意向を把握し、アセスメントを基に介護計画を作成し同意を得ている。サービス内容別に介護計画実施状況を毎日記録し、これを基に3ヶ月ごとにモニタリングを行い次の介護計画に繋いでいる。利用者の状況変化があればその都度介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別にファイルを作成している。バイタル表に体温・血圧・脈拍・食事・排泄・入浴・NS処置・水分補給・医療指示記録・経過観察などの記録を職員間で情報を共有し、実践や介護サービス計画書の見直し等に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物、ご本人の要望による外出など必要に応じ柔軟に対応するよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回(9月・3月)の消防訓練に消防署と中村防災の協力を得て行っている。地域の行事参加や催し物に招いたりしている。チャンココ・炎上太鼓など定期的に地域とのかかわりを持てるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医療機関に継続して受診できるようにしている。体力や状況によって往診のできる協力医療機関に変更して頂くこともある。結果も手紙・面談時・電話等で、ご家族にお知らせしている。	入居後もかかりつけ医に受診している。通院は看護師や職員が行い、「バイタルチェック表」で医師に利用者の状態を報告している。受診内容は「医療指示記録」や申し送りノートに記入して職員間で共有している。家族には電話や「家族への手紙」を通して受診内容を伝えている。必要時は眼科や精神科、歯科等の受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者に異常があった場合、昼夜を問わず看護職員に報告し対応している。毎日バイタルサインのチェックを行い異常の早期発見に努め、看護職員等に報告・相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関へ看護サマリー等情報提供を行い病状説明を家族と一緒に聞くようにしている。できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りや重度化した場合などのホームの方針を説明している。状況変化の度に看護師が家族に状況説明を行い、話し合いを繰り返す中で重度化した場合の方針の統一を図っている。看護師と24時間連絡がとれる体制が整い、ご本人・ご家族、職員の安心に繋がっている。	看護師2名常勤しており、利用者の状態変化時や緊急時は24時間連絡できる体制が整っている。ホームの方針で看取りは行っていないが、ホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえて家族と話し合い、重度化した場合の方針の統一を図っている。	利用契約時に重度化した場合などのホームの方針を口頭で説明しているが文書化されていない。今後は、重度化した場合や終末期のあり方、ホームの対応しうる最大の支援について明文化し「重要事項説明書」等に明記して同意を得る事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講師を依頼し、年に1回救命研修の実技を交えて行っている。急変の対応マニュアルを作り、敏速に動けるよう全職員が周知できるようにしている。なるべく早く看護師に連絡をとり、医療機関受診等の支援を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防計画に基づき避難訓練を消防署の立ち合いのもと実施している。自然災害対策として防災マニュアルを作成して年に1回定期的に見直している。同法人の他の事業所との協力体制が整い、市の消防担当者とも日頃から連絡を取り合っている。米、缶詰、飲料水、医療用品等の備品を準備し、防災のために「自主検査チェック表」で毎日点検を行っている。	消防計画に基づき年2回消防署や民間の防災会社の立ち合いのもと避難訓練を行っている。地域の特性で土砂崩れ等が予想されるため災害時の避難訓練も行っている。法人内の他の施設とも協力体制が整っている。災害に備えた備品も準備され、「自主検査チェック表」で毎日防災点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日朝礼時に唱和する「職員の目標」の中に利用者様の人権を尊重する言葉掛けや接し方が盛り込まれている。アンケート調査など行い、接遇改善に努めている。	理念を踏まえた「職員の目標」や「コミュニケーションの基本姿勢」の中に人権を尊重する接し方が具体的に明記され、毎日唱和する事で職員への意識付けができています。職員は利用者に応じた声かけやさりげない言葉かけ、対応に配慮している。職員の接し方に問題があった場合は、ミーティング時や生活の中でリーダーが注意をする等、日常的な確認と改善に向けた取り組みをホーム全体で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際など、どの服がいいかを選んで頂いたり、買い物や散歩など、ご本人の自己決定を大切に支援させて頂いている。利用者様との会話を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れがあり、希望に添えないことがあっても、強制することなく一人ひとりの心身の状況を把握、希望や自己決定を大切に要望に答えられるように努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院や床屋に行ったり、園に来て頂いたりし、利用者様の馴染みを大切にしている。服装も出来る限り希望に沿うように心掛け、素敵な身だしなみやおしゃれなど褒めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立に基づいた食材が届き、職員が調理している。一人ひとりの食事量や好みを把握し、盛り付けや形状など工夫し、楽しく食べて頂くよう心掛けています。イカ焼き・たこ焼きパーティー等を行い、レストランに食事に行く等、食事を楽しむ工夫をしています。	利用者の状況に合わせて、箸やスプーン、フォーク等を利用者に選んでもらう事で食事の自立を促している。利用者の状態に応じてミキサー食等、食事形態も工夫している。年1回はユニットごとに外食し、利用者が食べたい物を選ぶ等、食事を楽しむ工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形状や好みに配慮し、食べて頂けるよう努力している。食事摂取量の確認を行い、栄養摂取に問題のある方はミーティング等で話し合っている。入浴後の水分補給のため各部屋にはペットボトルや水筒を置きいつでも水分補給ができるよう支援してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずその人に合った口腔ケア介助・確認を行っている。義歯は夕食後、洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を取り、排泄パターンを把握している。トイレの声掛け・誘導・介助、その人に合った介助を行い、習慣化することで排泄の自立に向けた支援を行っている。出来るだけトイレ使用を心掛けている。	排泄チェックを行い、利用者に合わせてトイレへの誘導を行っている。看護師が作成した個別計画に沿って運動機能訓練を毎日行う事により立位や歩行状態が改善され、トイレへの移動がスムーズになり、オムツからリハビリパンツになった利用者もいる。様々な運動機能訓練を行う事で排泄の自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の有無・時間を記入し、排泄パターンを知り、排泄後は排尿・排便の確認を行っている。便秘の方には運動やお腹のマッサージ・水分補給を促している。便秘時は看護師に報告し、各自の便秘薬を出してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが一人ひとりの希望に出来るだけ沿った入浴時間帯にゆっくりと入浴して頂いている。特に冬場はどの方も浴槽にゆっくりとつかっていただいている。場合によっては入浴日以外でも入浴できるよう柔軟に対応している。	脱衣室や浴室が広く、仲の良い利用者は二人一緒に入浴して話しが弾む等、入浴を楽しんでいる。脱衣室にエアコンを設置する、利用者好みのシャンプーを使用する、洗身タオルを個別に用意する等、くつろいで入浴ができるように支援している。入浴時間を午前と午後に分けて利用者の希望に合わせて入浴ができるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、休息・仮眠を取り、自由に過ごして頂いている。室内温度調節を行っており、湯タンポなど希望で行い、気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服用している薬の説明書を全職員が読むようにしている。服薬時は本人確認を確実にマニュアル通りに行うようにしている。処方の変更等は通院・往診後、医療の記録で全職員が確認することになっている。利用者様の症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、楽しいことを把握し、生きがいを感じられる様な支援を心掛けている。洗濯ものをたたんだり、カラオケ・散歩・レクリエーション等、気分転換を図りながら楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物に出かけたり、天気の良い日は季節の花々をドライブがてら見に行ったりしている。自宅に行きたいと言う希望もあり、出来るだけ叶えるよう努力している。	一人ひとりの希望に沿って、洋服等を買に行く、妻に会いに自宅に行く、散歩の途中で海を見に行く等、利用者が戸外で気持ちよく生き生きと過ごせるように支援している。車いすの利用者は車いす対応車で外出できるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預けて頂くのが基本であるが知らない内に持たれている方や自己責任で所持している方がおられる。希望があれば職員が買ってきたり、一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持し、家族や知人から電話があつたり掛けたりしている。携帯電話の使用法の介助が時々ある。手紙など読んでさし上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーにはご利用者の作品を展示したり、季節感のある飾り付けに心掛けている。共用の場も温度設定に気をつけ居心地良く過ごして頂き、浴室や更衣の場の温度やトイレの便座の温度設定・換気に注意している。	広い窓から適度な光が入り、明るくゆったりとしたフロアーになっている。大きな水槽には金魚が飼われ、利用者が毎日えさやりをしている。利用者が描いた絵や職員と一緒に作った手芸品を壁に飾り、家庭的で居心地の良い環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	菜の花のフロアーはソファが指定席となっている。みんなで居るのが心地良く、安心感があるようである。職員と談話したり、テレビ・ドマー・マッサージチェア・プーリーなどがあり、希望や機能回復訓練に使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き、希望があれば模様替えやベッドの配置換えを行い、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。(ストーブ以外持込み可)	各居室にトイレと洗面台が設置され、プライバシーが確保されている。利用者馴染みのぬいぐるみやテレビ、筆筒、作品等が置かれ、利用者と職員と一緒に片付けや作品を飾る等、一人ひとりに応じた居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札がかかり自室がわかるように配慮し、床はバリアフリーでどこにでも手すりがあり、危険物は除き動きやすくしている。職員一同見守り強化し、怪我のないよう努めている。		